

健康教育

☆ 日本一健康優良学校へのあゆみ……………	2
☆ 「日本一」をかみしめる……………	4
☆ 健康は平凡である……………	6
☆ 健康優良児日本一……………	7
☆ 2人の日本一健康優良児を育てて……………	8
☆ 学校に感謝する……………	9
☆ 本校保健教育の概要……………	10
☆ 美知枝の親として……………	11
☆ 学校保健委員会運営の概要……………	12
☆ 児童の偏食と健康……………	14

昭和40年度全日本健康優良学校児童
表彰式を終えて（朝日新聞東京本社屋上）





日本一健康優良学校へのあゆみ

島根県松江市立雑賀小学校長

中 島 久 喜

はじめに

本校は国鉄松江駅から徒歩10分余、松江市の旧市内の南部を占めた人口約13000人の住宅地域に位置している。保護者の65%は俸給生活者である。

本校は1873年（明治6年）4月20日、島根県最初の小学校として開校され、卒業生は若槻礼次郎氏や岸清一博士をはじめとして、約14000名輩出し由緒最も深い小学校である。

児童数1081名 普通学級26 特殊学級2 教員定数33名
その構成は男11名 女22名 その他に職員15名。

本校は、古くは小身士族の居住地であった。地域住民の熾烈な向学心、困苦に耐える不屈の意志が、明治・大正・昭和を通じて本校教育を支える伝統的気性となっている。呼んで「さいか魂」という。昭和38年開校90周年を記念し、特にこれが現代的開眼を強調して今日に至っている。

地域全体の教育に対する理解と関心は深く強い。

1 なぜ健康教育にとり組んだか

(1) いつでも どこでも だれもがせねばならぬ教育だと悟ったから

健康教育は、保健室中心の教育であったり、保健主事中心の保健活動を主内容とするものではない。いわんや学力中心の教育ではない。健康の真義に着目して、全人間性の調和的発達をはかる全人教育こそ健康教育であるとわたくしは理解している。心身知の調和がとれ、豊かな社会性を身につけた人間育成をめざしたい。すなわち健康教育と考え、教育即教育活動の具体的な足場を、子どもの「自主性と健康と学力」をつくり育て高めることに求めている。

以上のように、健康教育こそ時処位を問わず教育の本道だと考えるに至った。

(2) 学校経営全体を反省評価するには、最も具体的事項を伴っているから

去る9月27日実地審査を受けたことによって、わたくしの以上の考え方は違ってないことが顕著に立証された。審査が、教育計画や活動また地域の協力など、教育全般にわたり綿密子細にきびしく行なわれたからである。

教育のいとなみを評価するには、現在その規範や具体的な評価事項に科学的総合的なものは見当たらない。にもかかわらず健康教育に関する提出資料には、具体的に21項目が定められている。（別項目があるから正しくは22項目）これら項目毎に、じぶんの学校経営全般をつぶさに評価検討するとき、全人教育の立場から弱い面、足らない領域など刻明に、しかも構造的は握ができるのである。

子どもの、よりよき教育を等しく願うものにとって、これほど具体的で科学的な全体評価をなし得るものが他にあらうか。

2 どのように進めたか

(1) 教職員全部の信頼と和

教育は、みずみずしい情熱が教師ひとりひとりにみなぎっていて、はじめて効率高く行なわれる。一教科や一領域の営みではなくて、教育全般にわたる健康教育を推進するには、一そうこの基本要件が必要である。その根源は教職員全員が、校長を中心として、たがいに信愛と和に固く結ばれていることにある。至らぬ身ではあるが、このことを念頭から離さず、常にこ細に心づかいするよう努力している。

(2) 校長の態度

学校経営方針は、全教職員の強く一致した共通理解と支持があってはじめて実際化できる。そうするためには、手順や段階をそれぞれの学校実態に即してふまねばならぬ。にもかかわらず、その基本はなんといってもやはり、校長の見識や態度にあると思う。健康教育こそ真の教育であるという固い信念と具体的方策をたてて、向かわんとする方向を明示する必要がある。

(3) 推進する核

48名の教職員ぜんぶがひとつのことを目指し、同一步調で進むことは、容易ではない。そこには推進する核が必要である。私は、教頭・教務部長・保健主事・教研部長・首席女教師・養護教諭をその核と考えている。これらがガッチリ固まらねば至難であり、その足場は職員保健委員会と考える。以上の核構成メンバーはそのまま校長のブレーンとし、また自主的に、じぶんで具体的な推進計画の原案作成に当ってもらうようにしている。

(4) 校医団の指導協力

学校および地域の保健指導には、学校医・学校歯科医・学校薬剤師計5人の積極的な指導協力を仰ぐような体制をとっている。機に臨んではもちろん学校保健委員会を通じ、また本来の業務活動のなかで接せられる保護者を啓蒙指導していただくことは適切である。

(5) 実践し推進する主役者—学級担任

子どもひとりひとりに浸透させる最も重要な立役者は学級担任である。

学級児童全員検便に参加させるにも、ムシ歯治療を100パーセントさせるよう指導力を発揮するなど、事の成否をにぎるのは実に学級担任である。健康教育の成果如何は、学級担任ひとりひとりの肩にかかっている。この自覚に立ち責任を分担してもらうよう、職員会や学年部会などを通して根強く努力してきた。

(6) 保護者および地域の協力

学力に関しては学校が十分責任を持たねばならぬが、すべて態度化、習慣化の問題については家庭や地域に責任をもってもらわねばならぬ。学級保健会や学年保健会、さらに地区保健会などで存分に話し合い、その実践指導をしてもらうよう啓発するのであるが、そのようにすることが本然の姿であるというふうに感得してもらうように、舞台回しの役目を果たすのは学級担任(地区担任)でなければならぬ。

3 具体的にどう進めたか

(1) これまでの経過

教室はあるが、机椅子と教材教具は、無にひとしい特別教室、鉄筋校舎建築のギセイとなって荒廃している中庭と校庭。教育効率の向上をはかるため精神衛生面をも配慮しつつ、36年度は、これら環境を特別教室の整備を第一着手にして力点をのこした。

特別教室は 音楽2 理科2 図工1 図書1 放送1 保健1。

中庭はPTAの廃品回収であがった収益を財源とし、労働奉仕によって3年計画で鳥舎も備えた立派な緑の楽園に化すことができた。

毎年重点教科を定め、研究と財源措置に考慮を加えることにした。36年度は「国語と算数」37年度は「道徳と社会・理科と放送教育」38年度は「道徳と音楽・家庭と図工」。放送教育の施設は、37年度から3年計画で全教室テレビ配置に着手。本校の児童は、脚力弱く胸囲と懸垂力にやや劣ることに着目し、屋内外の鉄棒を整備し、体力と旺盛な根性(さいか魂)を養うべくスポーツを奨励してきた。(健康教育の基盤づくり S36~38)

39年度は環境整備には東校舎(64年経過)の塗装と便所の改修に、特別教室のうち特に家庭科教室の整備と低学年用図書室の新設に重点をおいた。教科は、前年度来の「道徳・音楽・図工・家庭」の研究に重点おき、学校保健としては、前年度来引きつづき「近視とウ歯予防・集団検尿」に力点をのこした。健康教育実践の定着化をはかるには、地域および家庭の協力が重要であることを強調し、「家庭と学校を結ぶさいか教育」を刊行し、啓蒙と協力を促進するため全家庭へ配付し、学級保健会のテキストにも活用した。また河合製薬株式会社の寺田佐平先生に38、39両年度保健講演していただいたが、保護者に多大な反響を呼び、家庭における諸問題の解決に大きく前進をもたらしていただいたことは特筆に価する。

放送施設は予定どおり完遂してテレビは31台となった。なお来年度から40年度初頭にまたがって、中校舎(67年と30年経過)の完全塗装をなしとげた。これで古いものが全部明るく暖かい感じの校舎に生れ変わった。

40年度は花壇の増設、宿直室と物置の改造、職員室の整備、休養室の新設、ITBの設置に力点おき、研究の重点は「体育と特別教育活動・学校行事等」において今日に至っている学校保健実践の立場からは、特に組織活動と精神衛生・近視対策に重点おき全職員一致して実践につき進んでいる現状である。(健康教育実践の定着化 S39~41)

なお給食施設充実とは5年計画でやってきたが、今や全く充足した観がある。

(2) 保健の指導計画

○ 保健指導年間計画

「強じんな生活力をもつ社会人の育成」をめざす本校教育目標の達成のため、本校の特性を活かし系統的発展的に指導できるよう、各月の保健主題と努力目標を設定するなど詳細な保健指導年間計画を全職員の手でつくって着々実践している。

○ 保健学習年間計画

学習を契機として、子どもの保健生活が更新され、生活に役立つよう念願して学習指導をしている。年間保健目標の一体化を考え、保健指導計画と保健学習計画が具体的に関連するように配慮し、その計画にしたがって指導に万全を期している。



日本一を かみしめる

小田原市立早川小学校長

府 川 元 治

はじめに

本校は、風光明媚な相模湾にのぞみ、初夏には教室の窓にみかんの花のかおりがただよう学校。

小田原市の西南隅、790世帯の35%はみかん栽培を主とした農業者と漁業者、65%は種々な職業構成である。教育には熱心で、物心両面にわたる協力がある。

児童数280、学級数9、教員11、事務員1、栄養士1、調理員2、用務員2、総勢17の小規模校である。

I 内から育てる学校保健

1 廊下を歩けば、これでもか、これでもかと保健的臭気が鼻をつく学校がある。狭義の学校保健一色でぬりつぶされた学校経営、それが、ほんとうの学校経営であろうか。

学校であるがゆえに、非日常性がまかりとおることが、おうおうにしてある。そういう学校保健では、こどもの日常生活にいいことはむずかしい。

2 学校保健は、束ばくや規則によって、こどもを拘束し、型に入れる。外からの学校保健から、内から育てる学校保健に脱皮しなければならない。内から育てるとは、こどもの自覚に立つことである。そうして、自覚に立つとは、こどもが自分の生活行動について、自己反省、自己批判、自己統御ができるということである。

廊下はしずかに歩かなければならない場合がある。

廊下はかけなければならないときがある。

今は、しずかに歩くべきか、それともかけるべきか、だれがきめるべきだろうか。時・所・位に即して、こどもが自分で判断してきめるべきであろう。また、そのような指導が必要であろう。

正しい判断ができ、その判断にもとづいて行動のできるこどもを育成すべきではないであろうか。

3 本校では、「しずかに右側通行、ノ」とか「便所はきれいに、ノ」など、この類のポスターやはり札が校舎内に一枚もない。廊下に、模擬信号機も中央白線もない。その必要がないからである。そういう意味で、本校は学校保健くさくない学校といえるだろう。

II 「教育目標」と「学校保健のねらい」は一つ

1 「教育目標」のうち、「究極目標」と「具体的方策」は紙面の都合ではぶくが、「具体的目標」をのべてみると、次のとおりである。

学習指導

- (1) 基礎学力を身につける
- (2) 自学自習ができる

生活指導

- (1) 品格のある行動がいつもできる
- (2) 自治的生活ができる
- (3) 清潔整頓がよくできる
- (4) 健康の増進を積極的にする

学校行事指導

- (1) 規律的に集団行事に参加する
- (2) 生活を豊かに楽しくする

こどもたちを、この具体的目標に接近させるため、15の具体的方策を講じている。

その成果を累積して、plane—do—see の10年間にわたる循環、それが本校の学校経営である。
(計画) (実践) (評価)

2 WHOによれば、「健康とは、身体的にも、精神的にも社会的にも、健康であること」である。この健康の近代的定義と、早川教育の教育目標とは、まったく一致する。したがって教育目標達成の総合努力は、すなわち学校保健教育への総合努力といえる。

3 健康といえ、今でも、身体的健康だけを考えるものが

いる。しかし、それは、すでに過去のものに属する。風向きはすでに変わっている。

III 学校保健が学級経営に根を張る

1 こどもの学校生活の99%は、学級生活であり、学校教育は事実において学級教育であるといってもいい。本校がこの10カ年間探求しつづけて来たのは「学級経営を理想的にするには、どのようにしたらよいか。」ということであった。

2 理想的になされた学級経営においては、

★こどもたちの学力がつかなければならない。

★こどもたちの道徳力がつき、情操がゆたかにならなければならない。

★こどもたちの健康が増進されなければならない。

以上の三つの目的原理を達成するために、次の三つの方法原理に則って、ふだんの経営がなされなければならない。

★こどもたちの個性をじゅうぶんに伸ばす

★こどもたちの社会性をじゅうぶんに重んずる

★こどもたちの自主性をじゅうぶんに重んずる

3 もし「理想的な学級経営」が行なわれているならば、学力が身につく、健康が増進されるのは当然の結果であって、あえて学力充実や道徳力向上や健康増進をとりたてて問題にすること自体がおかしい。

4 以上の立場から本校における教育活動や教育研究は、すべて学校経営に根ざし、学級経営に正しく位置づけられたものであり、また、そうあるべく次のような努力をしている。

★「学級年間教育計画表」の作成とその活用

★「学級経営案」並びに「学級経営簿」の作成と指導経過の毎学期末の報告

★「学級経営自己評価表」による各教師の自己評価と学級経営の改善

★「学習指導要領」「指導書」「教材」の研究

いうまでもなく、本校の「学校保健計画」は各担任によって学級経営計画の中に適正に位置づけられ、年間を通じて計画的に実践され、累積される。学級に正しく位置づけるとは、保健教育・保健管理・組織活動が、学級経営の中で、正しい比重を与えられ、有機的に効果的に、学級経営の一環として機能を発揮することである。

5 学校意志や学級意志は、学級のこどもを通じてこどもの家庭へ流れる。家庭の意志は、こどもを通じて学級へ環流する。学級は学校と家庭を結ぶ窓口である。学校保健における

態度・習慣形成をはじめ、教育活動の深化拡充は、学級と家庭、学校と地域の密接な連けいによって実現される。学校保健における地域の組織活動が活発に行なわれるか否かは、学級と家庭の結びつきの強弱に影響されるところが、きわめて大きい。

IV 全人教育をつらぬく

1 本校では、こどもを生活全体としてとらえている。学習の問題でも、情緒の問題でも、健康の問題でも、それらは結局、こどものパースナリティ全体の問題と関係をもっているからである。そうして、こどものパースナリティの形成はこどもと交渉をもつ他のパースナリティと密接不可分である中でも、家庭における両親、学校における教師のパースナリティの影響は絶大である。こどもの健康の問題は、こどもの問題だけにとどまらず、教師の健康増進、両親および家族の健康増進を、あわせ考えなければならない。

2 小学校教育は、基礎教育であるから、一部面強調的な教育であってはならないし、全人教育でなくてはならない。研究の方法として、ときに特定の事項をとりあげ探究することはあっても、つねに学級教育の全領域に深い関心をはらい、学級経営の全体活動が振興するように努力した。

3 学校としてとくに強調したことは、身体的・精神的・社会的健康が、同時に、一人のこどもの人格の上に具現されたときには、はじめて眼前の生きて動くこどもは、健康なこどもになったということができるとのことである。このような学校保健は、急速・短期間の教育ではない。徐々に、学校全体の水準をたかめ、地域ぐるみの体制を強化し、全職員が教育観を統一し、共通理解の上に立ち、長期間をかけて、その成果を累積してはじめて実現できる。

4 本校では、四領域の教育活動を同時にとりあげている。学習指導要領と指導書は全巻をそろえて、各担任ごとに配布し、大体3カ年を周期に循環させ、理論的・実践的研究を継続し、学習指導の原拠にしている。対外的コンクールで、多数のこどもたちが個人表彰を受け、しかもどの学年、どの学級からも受賞者が出るとことは、学力の層が厚く、全体の水準が高まっていることを意味する。全国コンクールに入選した本校児童の作文が某社の国語教科書教材に採用されたり、創意工夫育成功学校として、科学技術庁長官賞を受けたり、多方面にわたる成果をあげている。

5 健康優良学校の審査が、全教育活動の現状および現在ま

での経過について厳正に行なわれることとあわせて、ほんとうの健康優良学校の意義について、再認識すべきだと考えている。

V 小規模学校の弱みと強み

1 職員は、一人一人が、かけがえのない歯車である。もし一つの歯車が健康不調や、逆回転でしようものなら、この一つのために、学校経営全体が前進できない。全職員が統一された教育観に立つということは、全歯車が快調に、前進方向へ順回転することである。納得のいく話し合いがたいせつである。

2 「仕事は冷厳に、交際は温かく。」——職員の人間関係は、家族的雰囲気の中にも、一つのきびしさがあり、安定した明朗健康な職場づくりに、全員が持場々々で努力した。

3 本校には、養護教諭がいない。保健主事といっても、学

級担任の教師であって、ギリギリの定員である。保健主事をリーダーにして、全教員が保健主事であり、養護教諭であるという心意気をもって、能率の高い指導法を考案し、相寄り相助け、一丸となって、学校保健の問題解決にぶつかっていきより道はなかった。

おわりに

本校の学校保健の実際がそうであるように、この稿の内容もまた学校保健くさくないものになった。日本一をかみしめると、「学級経営」に学校保健を正しく位置づけることのたいせつさと、「継続は力なり」ということを、しみじみと思う。

小春日和の、たわわにみのったみかん畑を眺めるたびに、学校保健の将来を思うであろう。そうして、これからも、日本一をかみしめながら、この道を歩みつづけていきたいと考えている。

“健康”は平凡である

岡山県妹尾町教育委員会

教育長 森 安 康 平

“ほがらかな先生”

聞いただけで好感の持てる先生である。

“シーブイ先生”

聞いただけでむつかしい先生のように思える。

“ほがらかな先生”は、子ども、同僚—保護者、だれにも好かれる先生である。これだけでこの先生の教育の第一歩は成功である。

“シーブイ先生”は子どもとなかなかシッカリゆかない。子どもが警戒してよりついて来ない。

“ほがらかな先生”になる基礎条件はまず“健康”である。からだぐあいが悪くては、ほがらかにやれといわれても、やろうと努力しても無理である。

さて自分の“健康”に対して学校の先生方は意外？に無関

心なのではあるまいか。何事をするにも、何を計画するにもすべての生活——職務も含めて——の出発に、まず“健康”のことを考える先生がどのくらいいられるか。病気で長期に休まれた先生の中にさえも、“健康”に不注意な人がいる。

“健康”は“汲んでもつきざる泉”ではない。濫費することによって次第に減少し、ついには消滅死亡するもの、蓄積によって増強するものである。

“健康”は“努力”によって築き上げるものである。

“健康”への道はそれぞれによって異なる。同一人であっても年齢によって変化するものである。

“スポーツ”よし“レクリエーション”よし“ビタミン、よし“栄養剤”よし。

要は“自分の健康”を24時間忘れないことである。

24時間というのは睡眠、食事、便通等々人間生活のあらゆる部分に“健康”を貫き通さねば真の“健康”は得られない。

“健康”ほど平凡であって最も大切なことはない。

平凡なことをアレコレとりあげることがきょうぎょうしいが、だれもかれも“健康”であるくらい幸福なことではない。

健康優良児が出るということは偶然であろうか。

自然環境条件の悪い中からどうして日本一が生まれたか。

学校長の教育方針が効果的に具現されるために求められるものは何か。

健康優良児日本一

大阪市立集英小学校長

杉 田 貞 三

本校は、大阪の都心部に位置し、校区は、北浜の証券街、道修町の薬品問屋、本町の織維等、大阪経済の中心を占めるいわゆる船場地区で、交通量は多く、自然環境には恵まれな条件を備えている。

一般に、大都市の児童は、統計上からも、体力の面には弱い数字を示しているが、本校の児童も、例に洩れず、教科学習には、両親の深い関心に支えられ、知能指数は、全国の平均水準をはるかに上まわっているが、身体方面は、都会的狭長型で、体質は劣り、耐久力も乏しく、気力に欠けている。

健康は、あらゆる人間活動の源泉で、すぐれた知識技能の習得も、健康であることが前提になっていることはいうまでもない。人生の幸福も、健康が基本的な条件となり、教育の基本目標も、心身ともに健康な児童の育成をめざしている。

従って、都市の教育は、児童の実態に基づいて、保健教育の推進を図ることが、重要な課題で、これらの実情に堪がみ、本校の努力目標は、望ましい集英の児童としての実践力の育成をめざして、保健教育の充実を重点をおいている。

本校は、昭和16年に、創立70周年記念事業として、千里山の郊外に、集英寮を建設し、竹やぶに囲まれた、緑多い高台で、その景観は、自然を友としてすごすのにふさわしく創設以来、寮教育の成果は本校教育の努力目標を充実させ、児童は、学級単位で宿泊することができ、自然に親しみながら、集団生活を通して、広く社会性を培い、健康生活の良い習慣を形成しつつあり、本校のめざす望ましいよい子の育成に貢献している。

なお、昭和38年には、大阪市教育委員会の研究指定校として、保健教育を、効果的に行なうための保健教育の在り方を、研究検討して、本校の保健環境を整備するとともに、月

々の保健教育に、ウエートをおいた、家庭月報をもとに、保護者の協力を求めて、児童が自主的に健康より諸問題を解決し、実施し得るよう、研究をかさね、当日の盛会な研究発表会でも、その成果を発表した。

今般 木村喜代通君の、健康優良児日本一は、本校が保健教育を、永く研究推進してきただけに、その感激はまことに深いものがある。

木村君は、大阪の中心、船場で生まれ、船場で成長している。健康には悪い条件の都心部から生まれた日本一であり、その栄誉は、広く都市に育つ児童の健康増進に、強い自信を与えた、この反響は大きい。

本校は、一昨年、福谷幸子さんの健康優良児準日本一、そして昨年は、学校が、健康優良学校特選に入選してきた。

このように、本校児童の比較的弱い面に、驚異的な成長を見たのは何よりもうれしく、今後、さらに保健学習を推進して、木村君に続く、集英のよい子の育成をめざして、集英教育のいっそうの充実を期したい。

編集係から

昭和40年度日本一優良学校・同児童出身校、文部大臣表彰に輝く函館市柏野小学校、当該学校長の高まいた識見と手腕、担任先生とお母様方のご報告に加えて、健康教育の基盤となる教児一体の実験記録（東京都北浦小学校）

このたびは特にこうした現場の姿を特集して『お待ちうさま』とお詫びしながらも読者諸賢にお届けできることを、改めて執筆者に対し感謝と敬意を表します。



木村喜代通君

2人の 日本一健康優良児 を育てて

大阪市立集英小学校

小坂達彦



福谷幸子さん

わずか教師の経験7年で、2人の日本一健康優良児を育てあげた喜びは、教育にたずさわるものとしてこれほど幸福なことはないでしょう。昭和38年女子準日本一、昭和40年男子日本一とわずか3年にしてえた立派な記録であると喜んでいます。昭和3年から数えて30余年の間で、2人が一校から選出されたことの実績と同時に小坂学級から選出された喜びもまた大きいといえるでしょう。

教育の効果は教科書に書いてあることを、いかにうまく指導したかということではない。私たちの反省、私自身の姿は子どもたちが鏡なのだからです。それだけに、教育特に初等教育の効果は、教師自身の持つ行動力にかかっているとも思います。ことばだけ、紙の上だけ立派であっても、児童には全く無意味に近いということです。『いかなるときでも』『いかなることをも』なしとげる力が、児童から教師に要求されているからです。

また、教師自身の身に付けている才能、能力がすぐれていても、実行なり実践で、その才能、能力が人間性を現わさなければ、もちろん認めようとはしないようにも思います。

そこで

① 素直である人に

徹底して自分は愚か者であることを自覚させ、認めさせる。人間とはそんなにかわい動物であることを、しかし逆に、それを防ぐものは人間のみであること、だからこそ素直でなければいけないとさとしてきた。

学級の標語の一つに

「心は赤ちゃんの目のように、そしてからだは大人より丈夫なからだに」

② 一つのこと集中できる人に

あまりにも社会全体が繁栄しすぎる傾向にあるため、また科学の進歩が人を退化させることを考えたとき、素朴になって、ただ一つのことにより満足に仕事を打ち込む精神、

忍耐が、自己の能力、才能をよりのばす大きな原動力になっているか。

「ものを始めたら、頭をあげるな。」

「息をしないで、いっきにしょう。」

などその例でしょう。

③ 考える人に

よく親が、今の人はえらいといわれます。それは「よく考えて……」という意味ではないのである。

「知っていること」と「考えること」とは全く異なっていることを、

学習面では特に指導を必要とすることである。

この三つの観点を児童の行動、生活全体の中の基本土台として植えつけていったといえるでしょう。

次に「健康」ということばの意義が問題だと思います。一般に健康優良児とは、身体的に特にすぐれた状態で、全くの狭義の面に考えがちで、むしろ自然現象による、過去の意味での取り扱いが多いように思います。

しかし、21世紀に生きる現代の児童には、そうではなく、もっともっと「広義」に解釈しなければいけないように思います。

それは今までの身体的な面に、精神的な素直な行動、社会性、知的能力、運動能力、こうした範囲に含まれるすべてが真の「健康教育」であることを力説していたのです。

こうした広義な健康教育が、学校教育に並列されていることを考えたとき、健康優良児の誕生がいかに教育上重要なものであるかを、考えあわせねばならないだろう。

文化国家であるかどうかは、その国家の福祉制度の充実さに示されるように『日本の教育関係者がもっともっと関心をもち、研究を広めていくことが、どんな影響を及ぼすか——』いうまでもなく、イギリスその他の西ヨーロッパ、アメリカ等の文化国家に接近することを意味し、日本の国民の幸福に

結びつくものと考えたとき、私自身の歩みは小さくとも、必ずや日本の教育にプラスになると信じているからです。

従って、優良児は私の教育における作品の一部だと解釈しています。

木村喜代通君の体力は（11月中央審査時）

身長	159 cm	50m 走	7.9 秒
体重	50 kg	ソフトボール投	43 m
胸囲	81 cm	走巾とび	4.20 m
知能	IQ 140	けんすい	8 回

であり学級中、身長は大きい順に4番目であり、男子でも平均化され、また素直さ、社会性でも、常に明朗で子どもらしい均斉のとれたバランスのある児童で、特に優れた面を持っていたとはいえないでしょう。

全国から選出された男女20名の代表者中、最も小柄であった点からも、上述したバランスの面での早熟児の発見でないことを認め、健康の意義が改めて広義に解釈されているものと思われまふ。

極端な表現をするならば、初等教育では、学習も運動も、その他のすべての特別活動も分解することなく、人間形成の手段にすぎないと思わせるべきでしょう。

例へば、泳げなかった木村君を水泳部に入部させ、からだをきたえると同時に忍耐力を育てたことも、今回の場合大きな力となりました。

都市部の児童の欠点を考えるとき、忍耐力、根強さということが、どれほど大切なことが実証されたでしょう。

本校では、業間体操、水泳能力検定、ドッジボールの投力検定、なわとび測定、強歩会と、自己の能力を知り、努力させることを、そして実践力のある児童にという、目標達成に努めていることも忘れてはならないでしょう。

また、健康管理の面でも、児童会、児童保健会、学校保健会、学級会、学級保健会など積極的に、そして「家族ぐるみ」の協力と成果を期待しています。

木村君、前回の福谷さんのみでなく、児童に環境に左右されることは当然です。それだけに、学級の団結、学級のふん囲気、流れが非常に重要になってきます。

みんなができ、みんなが苦しみぬくうちにそれが習慣化していくこと、そこに大きな自信も生まれてくるはずでふ。

ここに教師の行動力、学級経営の重要性が当然なほどになってきます。

今や福谷さん、木村君ともに、教育という尊いものの注入によって、立派に成長したものと思ひます。それだけに創りあげた者にとってどれほどうれしきことかは、他言できまふ。

日が過ぎるにつれ、学校内、隣接校の児童が、こうした人達をシンボルに、ますます、大阪市内、都会の児童にと大きな希望を持たらしていくことを、そしてどんな環境、人間で

もやりとげられる可能性を知っていかれることが、将来のためにもどれほど大きいエネルギーになるかを知ったとき、大きい価値になるだろう。

最後に、担任のみでなく、親の理解と協力の必要も認めねばならないでしょう。それは出生から入学までの養育は、学校生活のそれ以上のものであり、入学後といえども学校生活時間と家庭生活の比率を考えると、いっそうその感を深くするものであります。

日本一健康優良児は、親と担任、地域と学校それぞれの立場における努力の集積から生まれたという事実は、本校が39年度健康優良特選校に選ばれていることが実証しています。

私もまた明日から、新しい健康優良児を育てるための仕事が始まっていることを知らされています。

学校に感謝する

母 木村代志子

大阪府代表がきまりまして、担任の小坂先生はじめ、クラスの皆様の協力ははた目で見えておりまして涙ぐましいものでした。常々学校の保健教育、給食にと、お心をくだされました校長先生や、入学以来お世話になりました先生方のお力も大きいものです。子供が日本一の栄冠を得ましたのも集英で学ばせていただいたからこそと感謝しております。

思ひかえしますと、生まれました時から、普通児よりはは分大きいようでした。小さいころからあまり好き嫌ひもなく、私の作ります料理は喜んで食べてくれますし、ご飯より副食を好んで食べていたようです。それに野菜、果物、バター、チーズも大好物です。

そして外で遊ぶのが好きで、昔は家の横が広場でしたので、一日中三輪車に乗ってよく遊んでおりました。そのころから性格は、大へん明るくのびのびと素直だったように思ひます。

けれども幼稚園に通っていますころは、幼児のかかる病気は全部やりました。三学期などは休む日の方が多かったくらいです。

小学校へ入りましたころから、見違えるほど元気になる、病氣らしい病氣もせず今日に至っております。

これも学校での規則正しい生活と、小さいころからの何でも食べる習慣、それに四年生くらいまでは、睡眠を充分とるように心がけてまいりました。このような事も体力向上に、役立ったのだと思ひます。

本校保健教育の概要

広島県安佐郡安古市町立新和小学校長

古 田 芳 顕

■ 保健管理の目標

- 健康診断の結果を効果的に活用する
- 学校における児童の負傷、疾病などの防止につとめる
- 環境衛生の整備につとめる
- 健康観察と早期発見
- 机、腰掛の適正配置

■ 保健活動

1. 地域と社会

広島市に近接し交通至便であり、都市との交流が盛んである。また広島広域都市圏の基本計画として、安佐郡に教育、文化の中心をおくという考えがある。こうしたことは子どもの教育に対する父母の要求も高まり、一般に教育に対しては熱心で協力的である。地域としても体育活動に対しては協力的で、特にバレーボール大会には、町をあげて主催し後援を惜しまない。年何度となく地域ぐるみのバレーボール大会は活発に行なわれている。

2. 保健教育の概要

- 基礎的運動能力の向上
- 安全教育に対する習慣態度
- 規律ある集団行動
- 保健の学習指導と生活指導の徹底
- 学校給食は習慣形成に重点をおく

毎日全校児童朝礼を行ない身体、衣服などの生活指導と、全校児童の運動によって一日が始まり、それぞれの担任は児童の健康観察を行ない、表に記入して保健室に提出、養教は直ちに疾病異常者の早期発見防止につとめる。

休憩時、放課後等は5人に1個の割合でバレーボールをもたせ、本校の戦前からの伝統であるバレーボールを受けつぎ、地域の強い支持とともに児童の健康活動の一環として取り入れ、1年生から各学年相応のバレーボール運動を行なっている。

前年度から今年度にわたり、本校は交通安全教育モデ

ル指定校を受けモデル校としての交通安全教育を行なっている。

3. 保健そしき

○学校保健委員会

学校医、歯科校医、学校薬剤師、地区医師、PTA代表、会長、副会長、PTA保体部長、副部長、学校長、保健主事、体育主任、給食主任、養護教諭、栄養士、地区環境衛生支部長。

年度始めに保健委員会を開き、年間計画をたて児童の健康増進につとめている。

例えば、寄生虫検査、塗銀、抜歯、校内健康優良児表彰（3年、6年のみ）ぎょう虫検査並びに駆虫薬服用（保有卵者のみ PTA から補助）健康相談、年2回臨海・修学旅行、児童会の中に保健体育部と練成部があり、保健体育部の部員は児童の保健活動、保健衛生に関する計画を実践にうつす。

例えば、衣服、身体の清潔、運動場の固定施設の危険監視、100m コースラインをひいたりして、児童全員が健康的に活動できるよう取計らう。

練成部は、部員4年以上90人で、特にバレーボールにすぐれた人たちによってチームをつくり、休憩時には毎日リーグ戦を行ない、月々成績表をつくって活発な活動を行なっている。本校の校技としてのバレーボールを中心として、あらゆる健康、保健教育活動が展開され、また実際の成果も、それあるが故に広がってきているともいい得ると思う。

今後、ますます保健体育の面に力を注ぎ、更に進んで、科学的なデータによる研究への一歩前進を期するものである。

女子日本一健康優良児

矢村美知枝さんの身体状況並びに運動能力

（中央審査会当時のもの）

身長	159.4 cm	50 m	8.4 秒
体重	57.6 kg	立巾	2.05 m
胸囲	83.0 cm	ソフトボール	20 m



著者 荒木先生
お母さん 矢村さん

美知枝の親として

矢 村 弘 子

このたび美知枝は健康優良児女子日本一という栄誉を授かって、菊の花薫る文化の日に表彰されました。

親としてこれ以上の名誉な事はなく、私はとても嬉しく感激いたしました。

今いろいろ思い出して見ますに、美知枝が生まれたときは標準を大分オーバーし見るからに丈夫そうな子でした。

幸いにも母乳はたっぷりございましたので、夜中にミルクを作って飲ませるといふ苦労は一度もありませんでした。

1年と8カ月で弟が生まれましたので、私は少しの間ですが忙がしい思いをいたしました。姉弟の仲はとても良く、けんかして私を困らせるということもありませんでした。

おやつを与えるとき、たいてい年上の美知枝に与えてから次に年下の弟に渡して、いつの場合でも姉をたてるように気を配っておりました。

泣いたりお行儀の悪いときは、お菓子などあたえて機嫌をとるといふことはせず、お利口をしているときに褒めてお菓子を与えていました。美知枝は健康そのもので、病気といえは麻疹をしたぐらいで、お医者様にかかったことは一度もありません。

主人は皮フ科の医者ですが、少々のかずぐらいでは知らん顔で薬もあまりつけたことはなく、いつの間にか自然になおっているといった状態でした。

美知枝が幼稚園のころ、主人はアメリカに一年間おりました。主人の話では、アメリカの子供達は、家庭ではたいてい果物は皮ごといただいていると申しまして、我が家でもそれを早速実行し、ただ今では、りんご・なし・柿はもちろんレモンでも皮ごといただきます。さすがバナナの皮はいただきますませんが、ブドウは種から皮まできれいにいただくのにはびっくりいたし、家の者からも野蛮人といつてひやかされていきます。

食事も、小さいときから何でも感謝していただくということを教え込んでいたせいか、好き嫌いはありません。副食等の不平もいったことはありません。今から思えば、手のかからない子だったようです。

私が徹底的にしつけのことについてきびしくしたのは、幼稚園へ入園するまででした。

子供と私が話し合い、このようなことを実行しようとか、ここを注意してこんなにしましょうとか、いろいろ約束するのですが、今一番印象に残っているのは

「人の厭がる事はしない」「自分の事はなるべく自分でする」「使ったもの（例 のり、はさみ、つめ切り、懐中電灯）は必ず元あった位置に返す」「朝はおはようございます、晩はおやすみなさい」「ありがとう」「ごめんなさい」のごあいさつの以上です。

このようなことは前にも書いたように、小さいときから教え込んでいるせいか、自然に、みんな自分のものにしてよく守り、とてもお利口でした。

五六年生から急に親が口やかましく、お行儀を云々といつては、子供も抵抗を感じてこそなれ^{マイナス}に^{プラス}にならないと思います。

私は今ごろよく考えるのですが、しつけというものは母乳を与えているころから始めるのが本当ではないでしょうか……と。

女の子ですから、心のやさしい、おもいやりのある、大きな気持を持ったのびのびとした子になって欲しいといつも思っています。

これから先、立派な成人になるまで、たくさん問題に出会うでしょうが、よい相談相手として、また子供のお手本になるように、私も毎日努力して修養し、日本一明かるい、よい家庭を作るよう努力するつもりでございます。

体力づくり国民会議 体力づくり標語

入選 健康が心をつくる人つくる
佳作 つよい体力 明日への力
みな持とう強い体力強い意志
そらに太陽からだに力



学校保健委員会運営の概要

函館市立柏野小学校長

西 谷 倉 治

健康の育成には知的指導、疾病傷害予防等の積極面と、治療やこどもの活動を規制する消極的な二面があるが、とすると、学校保健は後者にのみはしりやすいが、いわゆる学校衛生の範囲を出ない保健であってはならないのではないかとと思う。

学校保健は能動的、意欲的でなければならない。体育は積極的で保健は消極的なものであるという声をきくが、これは形の上から現象を捉えていることでもあろうが、本質的には表裏一体の関係にあると思う。

学校保健は領域が広く、すべての教科に関連し、間口が広く奥行きは深い。しかも理論より実践である。

この意味からも、すべての教師が学校保健の理解者であり実践者でなくてはならない。こどもの全人的教育を考えながら、すべてのこどもの心身の状態をしっかり把握し、その上立って学習の展開や指導がなされなければならない。

今日の学校保健は、校医を中心にした管理中心から前進して、教師の手により保健教育を強力に反映し、地域全般の協力を得て、日々の教育実践の中に遅く位置づけて推進するのでなければその効果を期待することができない。

健康の保持、増進については知的に理解させるだけでは効果がなく、個々の健康はまた周囲に左右されることが多くなることを考えねばならない。

寄生虫駆除を例にしても、学校で検便し、いかに駆除に努力しても、家庭や地域に保有卵者がいればたちまちその効果は失われる。学校での駆除は、家庭や地域住民の駆除、生活改善にまで根をおろさないと問題の解決にはならない。

本校では、河合製薬の肝油ドロップを服用させて体力の向上、抵抗力を養う上に顕著な効果をあげているが、100パーセントの服用率と、戦前からすでに20余年服用を継続していることも、単に学校の奨励だけではなく、全父兄が積極的に協力されていることによって、はじめてなし得ていることなのである。

こうした事実の一、二をみても、学校保健の推進は計画的永続的でなくてはならないし、同時に学校だけでは解決されず父兄、社会全般の力をまたなければ成果をあげることで

きないものであることがわかる。

本校では、昭和26年度当初に保健委員会を結成し、14年の実績をあげて今日に至っているが、紙面の関係で詳述はできないが、関係事項の二、三について書いてみたい。

1 保健委員会の必要と運営

- (1) 学校における保健に関する事項が広範囲であること
- (2) 学校保健の実体は、校下の地域によって相違があること
- (3) 学校における健康教育、保健管理のねらいを地域一般に浸透させ、地域全般の協力を得なければならないこと

内容にも問題が多く、これを解決するためにはいろいろの角度から考えねばならない。

従って学校で行なうことに全面的協力を求める必要がある。また保健委員会は関係者が多く、長期にわたって計画的組織的に遂行しなければならない性格のものであるから、綿密に計画し、定期会合を開いて実施に関する事に検討を加える機会を多くして、機能の活発な活動が期待できるようにしなければならない。

2 保健の年間計画立案の手順

保健委員会の活動を活発にし、地域をあげての協力を期待するためには、立案にあたって慎重な考慮を払い、内容について十分理解されるように心遣いをすることが肝要である。

- (1) 学校環境が健康的に整備されること
- (2) こどもたちの学校生活が健康的に進められること
- (3) 健康診断、健康相談、伝染病予防等を随時適切に実施すること
- (4) こどもたちの保健に関する自治活動を活発に進めること
- (5) 学校、家庭、地域社会の一体的な連けが保持されること

等の基本的要件をふまえて、保健主事が中心となり、保健部員の協力を得て計画案の作成にあたっている。

立案に際しては

(1) 具体的な事項

- イ 児童の発育状態（定期健康診断による結果）
- ロ 児童の疾病異状の状態（定期健康診断による結果）
- ハ 児童の運動能力、児童の疾病、外傷発生の状態
- ニ 学校、家庭、地域の衛生状態
- ホ 前年度における児童の保健自治活動の状態
- ヘ 前年度の学校における保健管理、保健教育の実施状況

等の実体調査や実施の経過について反省し検討を加えて立案する。

(2) 原案は保健委員会にかけて十分検討を加える。

(3) 保健委員会の検討の結果を勘案し、必要に応じて訂正し、その案を教研会（一般校の職員会議に相当）にはかって、全員の理解と協力を得て、最終的に年度の学校保健計画を決定する。

(4) 実施後は必ず評価をしている。計画に従って実施しその結果を評価することによって、成果を見極めることができ、更らに次年度計画への反省、資料にすることができるからである。

次に参考として昭和40年度保健計画表（一学期分）および足跡の一部を掲げてみた。

昭和40年度 保健年間計画表

函館市立柏野小学校

月	健康診断関係	環境生活関係	その他	備考
4	定期健康診断 発育検査 内科検診 歯科検診 眼科検診 耳鼻咽喉科検診 色神検査 視力検査 聴力検査(オーディオメーター) 職員健康診断 健康診断結果の処理	中掃除 保健室の整備 校内環境衛生検査(毎月) 施設設備の破損箇所の整備 机、椅子の調整 手洗い場の調整 採光換気照明の調整	学校保健計画の改訂 世界保健デー 緑化週間 狂犬病予防週間 身体障害者福祉週間 結核予防週間 姿勢強調週間	学校保健計画表の作成 健康診断関係者簿の作成 生活要保護、準要保護者の調査 学校安全加入手続きおよび移動報告 (毎月5日)
5	寄生虫検査および駆除 修学旅行生健康診断 運動会救急処置と看護 トラコーマ集団点薬 体重測定		児童福祉運動 目の愛護週間 動物愛護週間 バードウィーク 手洗い週間 赤十字平和デー	健康診断結果の統計処理 健康診断結果の処理 要保護、準要保護者の被患状況調査
6	結核検診および予防接種 腸パラ予防接種 う歯予防措置 体重測定	大掃除 校内環境衛生検査 便所の清潔、消毒、防臭 防虫、くみ取口の検査 伝染病媒介物の処理	交通安全週間 ムシ歯予防デー 赤痢予防週間 救らいの日 栄養教育強調週間 海の記念日→海の安全	
7	水泳学校生耳の検査 体重測定		伝染病予防週間 こども会開催 ラジオ体操会への参加	各種統計処理 夏休み健康生活表の作成
8	発育検査	大掃除	はえ駆除	

- | | | |
|--------|-------------|--|
| 受
賞 | 25. 11. 15. | 朝日新聞社主催全道健康優良校（都市部1校）として表彰される。 |
| | 26. 11. 11. | 北海道教育委員会、朝日新聞社共催北海道健康優良学校都市部健康優良校として表彰される。 |
| | 27. 9. 27. | 全日本健康優良児童表彰会より健康優良校として表彰される。 |
| | 27. 9. 29. | 北海道健康優良児童、健康優良学校表彰会より北海道健康優良校として表彰される。 |
| | 39. 9. 7. | 北海道学校保健会より保健委員会表彰される。 |
| | 40. 11. 13. | 全国保健大会において保健委員会文部大臣より表彰される。 |



児童の偏食と健康

東京都大田区立北蒲小学校教諭

新 井 準 夫

1. 栄養のバランス

一つの食品がすべての栄養素を含んでいて、それだけ食べればもうよいのだ、ということはありませんので、健康な身体をつくるためには、どうしてもいろいろな食品を組み合わせさせてとることが必要で、より効果的な食事は、朝・昼・夕の三食をつりあいよくとって、一日中食べた食品の種類が多ければ多いほどよいわけである。そのために、児童に対して何でも食べるようにする指導が大切である。

一般に、人には多少なりとも食べ物の好ききらいは見られる。本校児童の嗜好を調べてみると、特に好むものは、ごはん、パンはもちろんであるが、チョコレート、ピーナツクリーム、バター、牛乳、ハム、ソーセージ、卵、なんきん豆、のり、みかん、りんごをはじめとする果物である。

一方、きらいなものではチーズ、肉、魚、貝、豆、野菜類に目立つものが多い。肉は脂肪が多いとか、魚は骨があるとかできらわれ、野菜でもしゅんぎく、ピーマン、パセリなど特殊な味や匂いのするものがきらわれている。また、家庭の食膳に出ることが少なく食べられないのもそうである。

ある食品がきらいで食べないとしても、同一食品群の中の食品がとられていれば栄養補給や発育にさして影響があるとは思われないが、魚はほとんどがだめだとか、野菜はいつも食べないというように、一食品群全体がきらいであったりすると、健康と発育の点で、どこかに欠陥がでてくると考えられる。その場合、偏食の状況と原因をつかみ、十分きょう正の方法を考えなくてはならない。

2. 偏食の原因

偏食の程度の特にひどい児童23人について生育歴など調べてみると、出産時、幼児時に問題が多い。たとえば生まれたとき未熟児だったのが3人、難産が4人いる。また母親が妊娠時に腎臓病とか心臓脚気、または妊娠中毒症など栄養状態が正常でなかったのが4人いる。幼児時の病気にかかったもので肺炎、ひきつけ、高熱、消化不良が5人いる。性格的に見るとほとんどの児童が神経質であったり、かんしゃくもち

である。

その他偏食の原因を考えられるものは

- ・母親自身の好ききらいが多い
- ・母親または祖母が甘やかした
- ・父親に好ききらいが多い
- ・子どもが病気がちなので食べ物に神経質になりすぎた
- ・仕事や勤めの関係で食事時間が一定しなかった
- ・おやつに甘いものを与えすぎた
- ・肉、魚のおかずが多くて、野菜のおかずが少なかった。

またはその逆の場合等の理由が多かった。

3. 偏食きょう正の考え方

偏食の状況や原因をつかんだ上、児童個々の条件を考慮しながら、偏食をなおす努力を続けなければならない。きらいな食品を無理に食べさせると吐いてしまう子どもには、心理的、生理的な立場から特別な指導を行ない、性急なやり方は避ける必要があるが、家庭の今までの食習慣や本人のわがままから食べないという場合には、料理の仕方を工夫したり、栄養に対する関心理解を高めさせ、食べ物のとり方が健康と発育に密接な関係を持っていることを説得するなどして、食べやすい条件をつくる中で、時々はきびしく言い聞かせて少しでも食べさせ、はげまし、自信を持たせて行くことが大切である。

同一献立で同じ時間に、同じ場所で友達どうし楽しく食べる学校給食は、偏食きょう正に大きな役割を果たす場である。なおその上、学校と家庭の連絡が密であればあるほど、その効果は大きいものとなる。

4. 効果のあった二十日ねずみの実験

偏食をなおす方法として、健康ノート、食事日記を作成し児童に持たせ活用する中に、栄養に対する関心理解を深め、きらいで食べられない食品を少なくしようと努力するように仕向けたり、父兄対象に偏食相談、栄養教室、料理講習等を行なって、家庭側からの協力をお願いしたりしてきたが、具体的に事実即したわかりやすいものとして特に偏食きょう

正に効果のあった二十日ねずみの実験にふれておきたい。

二十日ねずみを4グループに分け、それぞれに与える食べ物の種類を変えた場合、発育状態がどうなるかを調べたわけである。生後3週間ほどたったのを1グループ10匹ずつにし、50日間にわたって児童会給食部の児童が飼育にあたった。

Aグループ……パン、ミルク、やさい

(炭水化物、たん白質、ビタミンを中心として一応栄養のバランスよし)

Bグループ……パン、ミルク

(身体の調子をよくする食べ物がない。ビタミンA・C欠乏)

Cグループ……パン、やさい、水

(血、肉、骨をつくる食べ物がない、たん白質欠乏)

Dグループ……パン、水

(力や体温のもとになる食べ物だけ、たん白質、ビタミンA・欠乏)

どのグループも、与えられる量には制限はない。

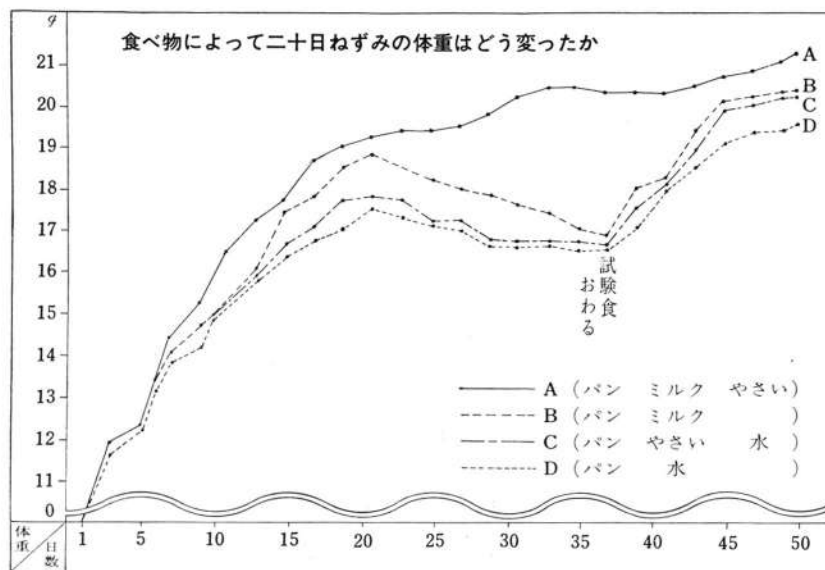
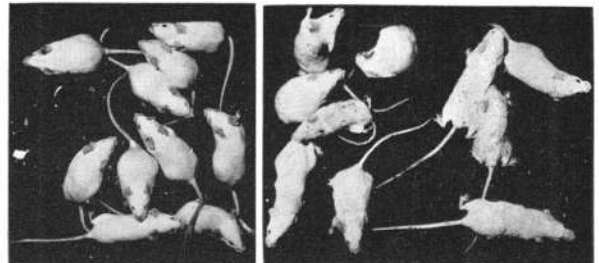
はじめ、各グループとも、体重が同じように増加して行ったが、10日目あたりにグループごとに体重の増加に差はは

飼育している子ども達が、「このままじゃかわいそうだ。死んでしまうかも知れないね」と言うので、「実験のようすもわかったことだから、Aグループと同じ物をあげることにしよう」ということで、パン、ミルク、やさいを与えはじめると、つぎの日からグラフで示すとおり、急激に体重がふえ始め、元氣も回復してきた。

このように結果がはっきり表われたため、子ども達に大きな反響を呼び、今まで肉類を食べなかった子が、つぎの日から食べるようになったり、「ぼくは野菜がきらいだからBグ

37日目のAグループ
(パン、ミルク、やさい)

37日目のDグループ
(パン、水)



きり出てきた。22日目ごろAは依然順調であるが、BCDは下降し始める。37日目ころはいずれも体重の増減停滞気味である。

このころAは、相変らず色白く、毛並みもよく、しっぽも太く丸々として元氣である。ところがBは毛がうすくなり、やけどか皮膚病のようにはげて地肌のあらわれたのも出てきた。Cも毛がうすく色つやが悪く、やせて元氣がない。Dとなるとまったくあわれで、すっかりやせてしまい、毛並みも目立って悪く、色つやも黄色がかってきたなくなった。動作ももたもたして元氣がない。

グループかな、あんなになるといやだなあ。」ときらいな野菜を食べようと努力するようになった子どもが目立って多くなった。

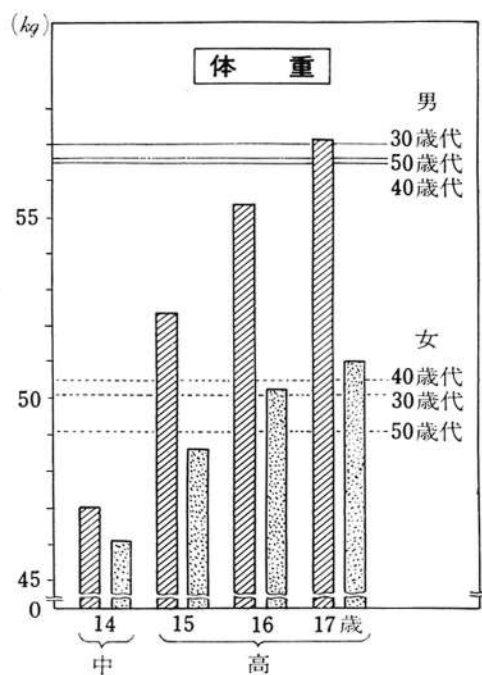
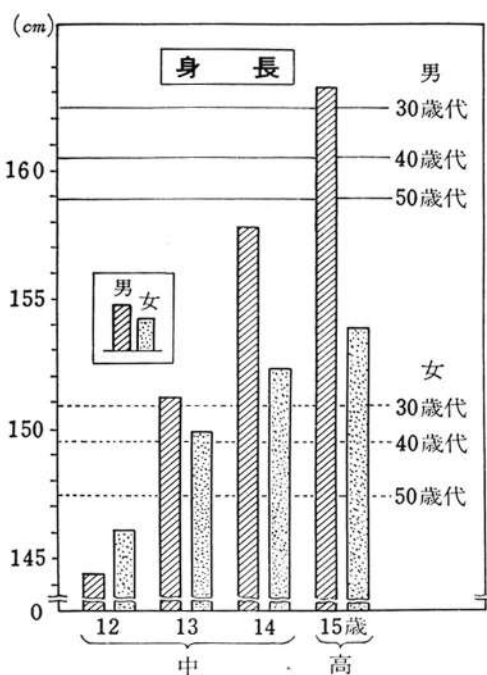
おかあさん方の中には、子どもの好ききらいは大きくなれば自然になくなってくのではないかと楽観視している向きも多く見られるが、そのような考え方でなくて偏食きょう正に意欲的に取り組み、よいチャンスをとらえ工夫をして、できるだけ早く偏食をなくすよう配慮することが、子どもの健康な身体づくり、正常な発育のために大切なことではないかと考える。

校長先生はいつも子どもの発育や栄養について、激励と指導とを与えてくださる。教育の機会均等、体質改善という広い視野から発育期に必要なビタミンを肝油ドロップ全員服用ということで続けている。これは学校給食と同様全児童劣等感をいだかせないで極めて明朗な気持で服用している。

栄養のバランスや偏食のきょう正の一手段として、二十日ネズミのグループ別飼育によって全児童や家庭にまで効果はあがり、飼育状況のスライドは、全国の中学や定時制高校にまで栄養体質の改善資料として、採用されることになるそうである。

男生徒の身長は中学で母親を超越し高校で父親を追い越す

昭和39年度 文部省「学校保健統計調査報告書」による

学校保健にお務め
する保健栄養剤

カワイ肝油ドロップ

1粒中 { ビタミンA 3,000国際単位
 { ビタミンD₂ 300国際単位

給食強化剤

アドリッチ

1g中 { ビタミンA 50,000国際単位
 { ビタミンD₂ 5,000国際単位



カワイ

製造発売元

河合製薬株式会社
東京都中野区新井2丁目河合研究所
東京都中野区昭和通2丁目

“ママの質問箱”

これは河合製薬提供のラジオ番組で、毎日毎日お家庭のお母さん方が、心をいためるお子さんの病気や教育、あるいはしつけなどについて、下記の先生が親切にお答えくださいます。ご利用ください。

★愛育研究所保健指導部長

医学博士 松島富之助先生

★お茶の水女子大学教授

医学博士 平井信義先生

【各局の放送時間】

ニッポン放送 毎日(世) 9時15分から
(東京) 除日曜
東海ラジオ放送 9時45分から
(名古屋)
ラジオ大阪放送 11時35分から
(大阪)
九州朝日放送 9時25分から
(北九州)